

南小ブックフェスタ～図書室へ行こう、本を楽しもう～

奈良県 生駒市立生駒南小学校

基本データ

所在地	生駒市萩原町 335
児童生徒数	424 人
教職員数	25 人
蔵書数	11,194 冊
年間貸出冊数	13,557 冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】読書啓発・指導

【活動のねらい】

- 児童が読書に親しむとともに、普段読んでいるジャンル以外の本を読んでみようという気持ちを持つことで、読書の質を高め、幅をひろげる取組を目指した。

取組・活動の概要

- 年間を通して読書と呼びかける活動を行っている。「南小ブックフェスタ」は、読書週間に合わせて行う全児童を対象とした毎年恒例の取組である。
- 例年、司書教諭と学校司書が企画する活動と、図書委員会の児童が中心となる取組を並行して進めている。
- 令和元年度は、「先生おすすめの1冊」、「みんなの本だな」、5年図書委員による2・3年生への「出張読み聞かせ」に加えて、生駒市図書館と奈良こどものとも社の協力を得て「えほんのひろば」を開催した。

(1) 「先生おすすめの1冊」

- 毎年恒例の企画で、教職員が図書室にある本を1冊ずつ紹介する活動である。
- 各教職員が児童に読ませたい本を選び、その本の良さを記入したカードを表紙に貼って、特設コーナーに展示・貸出する。
- さらに、そのカードをまとめて、「南小図書室だより」で保護者にも紹介した。



先生おすすめの1冊

(2) 「みんなの本だな」

- 子どもたちが書いた「おすすめの本」のカードを、図書室前の掲示板に貼って紹介した。
- また、カードを書いた児童には、生駒南小学校図書室のオリジナルキャラクター「トシヨ」のしおりをプレゼントした。



しおり：平成30年からトシヨ登場

(3) 「出張読み聞かせ」

- 読書タイムの時間に、1年は通年で学級担任が読み聞かせを行っている。
- 他の学年は、普段は自由読書の時間となっているが、読書週間の期間中は、5年図書委員が2・3年教室に行き、読み聞かせを行った（6年生は4月23日の子ども読書の日に同様の活動を実施した）。
- 各学年で年に2～3回実施している「生駒おはなしの会」の皆さんの読み聞かせが、良いお手本となっている。

(4)「えほんのひろば」

- 10月30日～11月1日の3日間、生駒市図書館・奈良こどものとも社の協力を得て、多目的室に300冊の絵本を展示し、中休みと昼休みに自由に閲覧できるようにした。
- さらに、各学級で授業時間中に「えほんのひろば」へ行く時間を設け、読書を楽しんだ。
- ここでは主に6年図書委員が、本の整理をしたり下級生に絵本を読んであげたりする活動を実施した。



えほんのひろば

取組・活動の工夫や特徴

- ①毎年定番の取組を設けている
 - 「先生おすすめの1冊」と「みんなの本だな」は、手軽にできる取組であるにも関わらず、児童の読書への関心を高めるうえで有効である。
 - 毎年継続して実施しているので職員や児童への負担も小さい。
- ②図書委員会や児童が直接参加する取組を設ける
 - 「みんなの本だな」は「先生おすすめの1冊」の児童版であり、多くの本の紹介が集まった。
 - 中には、「先生おすすめの1冊」を見て本を読み、面白かったので同じ本を紹介する児童もいた。
 - 「出張読み聞かせ」が本年度の図書委員会による読書週間の中心の活動であった。5年図書委員が2人ずつのペアになって本を選んで練習し、担当の学級へ読み聞かせに行った。
 - なお、オリジナルキャラクター「トシヨ」は、平成29年度の読書週間中の図書委員会の取組で生まれたものである。



トシヨ

③毎年新たな活動を取り入れる

- 図書委員会の活動内容を毎年変更したり、本の紹介の仕方などを少しずつ改良したりして、新鮮さを演出している。
- 本年度は図書委員会の読み聞かせと、外部の支援を得て「えほんのひろば」を実施した。

取組・活動の成果や今後の展望

- 「先生おすすめの1冊」の中には、児童があまり手に取らない本もあったが、担任の先生や校長先生など、親しみのある先生が紹介しているので、貸出回数が増えた本があった。
- 同様に、「みんなの本だな」で児童が紹介した本についても、友達が紹介してくれた本に興味を持っている様子だった。
- 「出張読み聞かせ」に参加した5年生児童は、下級生の楽しそうに聞いてくれる様子を見て、「またやってみたい。」と話す者もいた。
- 「えほんのひろば」で展示された絵本の中には図書室にない物も多く、児童の興味関心が広がった。
- 会場の多目的室はカーペット敷の教室であり、児童は思い思いの場所に座って読書を楽しむことができた。
- 5年生の国語科の学習で制作した本のPOPを、「先生おすすめの1冊」のように本に貼り付けて展示した。
- 今後は、このような各学年の教科学習とのタイアップの拡大を検討したい。